

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

【基本事務事業名】 水産研究部研究施設機器整備事業

【評価年月日】 平成12年11月2日

【担当部課名】 科学技術振興センター水産技術センター

【記入課名 課長名】 所長 丹羽 誠

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策：安心を支える力強い農林水産業の振興地域づくりの推進（ - 1 ）

施策：地域特性を生かした生産振興と安心で効率的な流通体制の確立 （ 4 1 2 ）

総合計画の目標項目

波及効果 副次的効果を及ぼすと考えられる施策：

安全で安心な水産物の生産振興と技術開発

科学技術交流の推進

2 基本事務事業を巡る環境変化（過去、現状、将来）

1. 瀬風（1.5トン）

・現調査船は昭和61年2月に建造し、建造後13年以上が経過している。平成3年以降エンジンの故障を繰り返していたが、平成12年8月8日には尾鷲湾引本浦においてエンジンヘッド部分から2次冷却水が噴出、エンジン停止し航行が不能となった。修理をして運行してはいるが今後の運行について、乗組員の安全性確保が懸念される。

2. あさま丸（56トン）

・あさま丸は平成12年度には船齢が16年で第5回定期検査を受けたが、一般には船体がFRP等の大型調査船は15～18年が耐用年数の限界とされ、乗組員の安全性確保が懸念される。

・あさま丸においても老朽化から船体・機関各部の故障個所が多く発生するようになり、船体・機関の故障と修理が多く、現在の観測や調査の業務に支障をきたしている。

・本県は 海岸線が約1,000kmと長いうえ、 漁場形成に影響すると考えられる黒潮流軸まで100㌔以上と沖合に遠く、 さらに環境保全が課題となっている伊勢湾など調査海域が内湾、沿岸、沖合と広範囲に渡り、速力が遅いあさま丸では充分に対応しきれなくなっている。

・15年以上を経過した今日、あさま丸の搭載電子機器も老朽化しており、最近の多様化、高度化した海洋環境調査、海洋資源調査、内湾環境保全調査等に充分に機能していない。さらに、建造時整備された各種機器類は海水、高湿気、振動等劣悪な使用環境による劣化が著しい。

・あさま丸の居住環境はベッドが狭い、風呂、シャワーがなく、女性の使用を想定した対応がされておらず、現代の使用状況にそぐわないものとなっている。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図（何をどういう状態にしたいのか）

対象：調査船（瀬風、あさま丸）

意図：

1. 瀬風

・本船は尾鷲湾や引本浦、賀田湾等を調査海域として、養殖イカダの曳航等も行うため、安全運行のため特に信頼性の高い機関を備え、波浪にも耐えうる必要がある。

2. あさま丸

新調査船の概要

船 質：アルミ軽合金

主要寸法：28m×6.4m×2.6m

総トン数：約76トン

主 機 関：ディーゼル1600PS×2基

速 力：20ノット

・現調査船の船速は常速で12ノットであるが、老朽化のためその船速は10ノットと低下し、しかも喫水が深いので浅所の調査には適しない。そこで、高速力が出て、しかも喫水の浅い深V型の船型を採用したい。速力は常速20ノット以上を確保し、機動性、迅速性のある観測、調査が実施出来るようにする。速力が20ノットになることによって、現行の観測が1泊短縮される上、黒潮北縁部（北緯33°）までの観測も可能となる。

・総トン数は現行56トンから約70トンと増トンし、実験室をドライ1室からドライとウェットの2室確保する。この結果、ドライ実験室に於いて精密機器の保守管理が強化されるとともに、最新の多様な機器整備や共同研究のスペースも保障される。また、乗組員の居住環境が改善され

基本事務事業名：水産研究部研究施設機器整備事業

る。

- ・後部甲板部に観測機器類等を集中配備させることによって、増員を伴わずに、観測等の安全性、作業性の向上を図る。

3-(2) 成果指標名・成果指標式 (総合計画の目標項目には*を付す)

$$\text{調査船建造進捗度} = \frac{\text{達成建造項目数}}{\text{調査, 計画予定数(3) + 設計予定数(5) + 建造整備予定数(13)}} \times 100$$

変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明 (指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

調査船灘風の更新並びにあさま丸の建造の進行を管理するため、必要な項目のうちいくつかの課題に着手するかという建造進捗度を設定した。

3-(4) 結果 (施策における2010年度の目標)

1. 灘風

- ・本船は尾鷲湾や引本浦、賀田湾等を調査海域として、養殖イカダの曳航等も行うため、安全運行のため特に信頼性の高い機関を備え、波浪にも耐えうることになり、各種調査研究の効率を高めるとともに安全に遂行することが可能になる。

2. あさま丸

- ・三重県の沖合は黒潮が流去しているが、その流去パターンには直進型と蛇行型があり、変動パターンによって暖水波及や内側反流の挙動が複雑に変化する。その挙動は熊野灘沿岸域や伊勢湾等内湾域の水塊分布に影響を与え、その結果として、カツオ等の漁場形成のみならず深層水の分布、卵稚仔の発生、藻場の消長、内湾域の貧酸素水塊の形成、赤潮の発生等にも影響を与えていると考えられる。このように、本県沿岸域は黒潮変動の影響を受ける複雑な海域である。
- ・新調査船は、上記した海域の複雑な海洋構造を迅速且つ的確に把握することが可能となることから、沿岸漁業の振興（漁業資源の持続的生産）はもとより、海洋未利用資源の開発、内湾域の環境保全にも貢献することが期待される。さらに、公設試を始め高等教育機関の連携強化に基づく海洋関連の調査研究の充実や学生・一般県民を対象とした海洋体験学習等県下における海洋科学の発展と普及啓発が期待される。

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度 (H11年度)における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

なし

前年度に残った課題

なし

4-(2) 本年度(12年度)における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

あさま丸の定期検査

あさま丸代船の基本設計並びに詳細設計。

本年度残ると思われる課題

灘風の更新

あさま丸代船の建造

5 基本事務事業の改革方向

灘風については修繕による費用対効果の検討から更新することとし、あさま丸については12年度設計の結果に基づいて建造を実施する。

基本事務事業名：水産研究部研究施設機器整備事業

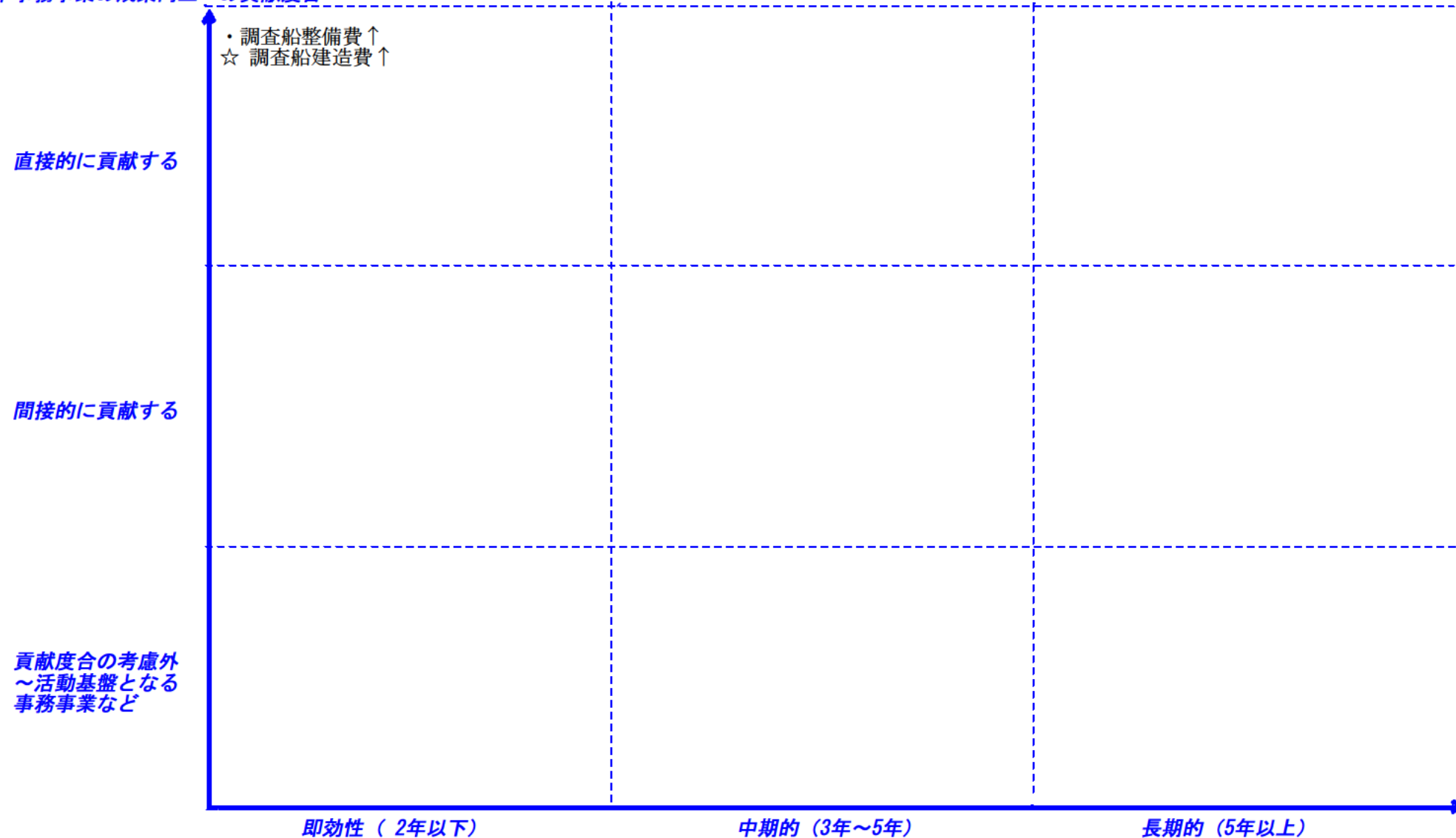
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等(千円)		必要概算 コスト(千円)
	目 標	実 績		所要時間(時間)		
前々年度 (H10年度)				-----		
前年度 (H11年度)			〃	-----		
本年度 (H12年度)	2 9	2 9	〃	----- 2 8 , 2 8 3 1 , 5 6 0		3 4 , 7 5 7
本年度補正後 (H12年度)				-----		
翌年度 (H13年度)	1 0 0	_____	〃	----- 6 1 1 , 0 6 7 2 , 3 0 4		6 2 0 , 7 2 1
計画目標年次 (H13年度)	1 0 0	_____	〃	_____		_____

7 翌年度(H1 2年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : Project Portfolio Matrix)

〈必要概算コスト： ☆ 5億円以上 ◎ ～ 1億円 ◇ ～ 5千万 △ ～ 1千万 ・ 1千万未満 * 休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合



※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細
新規事務事業には、事務事業名に (新) を付す

事務事業名 (担当課)	成果指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (± 千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (± 時間)
調査船整備費	調査船建造進捗度	調査船瀬風の更新	7,456	14,160	768	192
調査船建造費	調査船建造進捗度	調査船あさま丸の建造	603,611	596,944	1,536	936